

平成 27 年 5 月 28 日

霧ヶ峰踊場湿原外来種(オオハンゴンソウ)駆除モニタリング調査について

諏訪市教育委員会・
信州大学学術研究院
農学系 大窪久美子

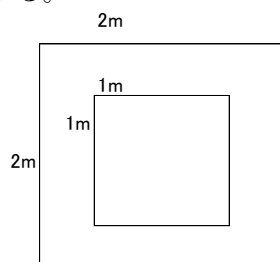
目的：近年、国天然記念物霧ヶ峰植物群落（踊場湿原）において特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの侵入、定着が確認されており、今後さらなる分布拡大が懸念される。そこで本調査では踊場湿原におけるオオハンゴンソウが定着している群落において、刈取り及び掘り取り処理実験を実施し、適切な駆除方法を検討することを目的とした。なお、モニタリング調査は諏訪市教育委員会が行い、信州大学に委託する。調査期間は平成 27～28 年度の 2 カ年を予定する。

方法：実験処理区は刈取り区及び掘り取り区、無処理区の計 3 区について、反復数は 2 プロットで計 6 プロットについて実施する。処理は 7 月下旬から 8 月上旬に実施し、オオハンゴンソウのみを対象とし、土壌の攪乱には充分留意する。なお、調査による人為的な影響を避けるため、調査にあたっては外来植物を持ちこまぬよう事前に洗浄した履物の用意、必要最低限の人数による湿原への立ち入りの遵守、同じ場所を何度も歩かぬよう留意する。各処理区は 2m×2m とし、その中の 1m×1m 内で調査を行う。モニタリングの植生調査では出現種及び被度、群度、群落高を測定記録し、7 月に実施する。立地環境調査では相対光量子密度及び土壌含水率、土壌硬度を同時期に 5 反復で測定する。

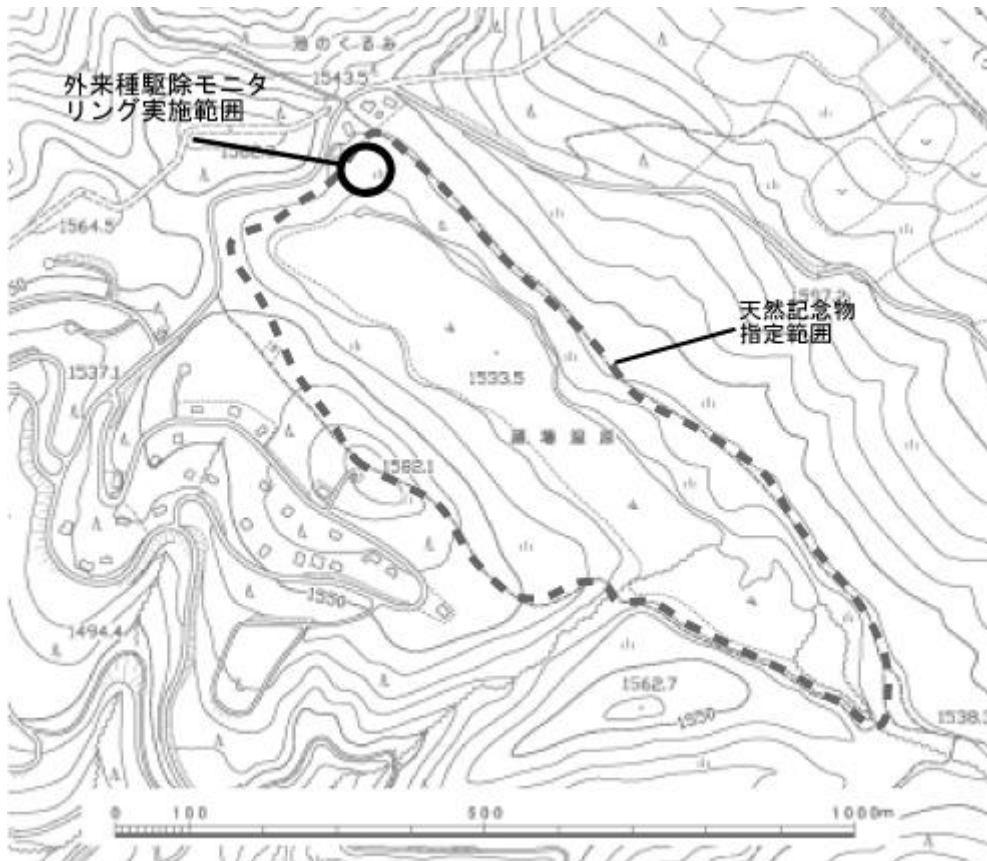
刈取り処理については刈込バサミまたは剪定バサミで地上部のみを丁寧に切り取る。また、掘り取り処理については、オオハンゴンソウの地下部をすべて掘り取るように丁寧に作業し、土壌のかく乱をできるだけ生じないようにする。また、掘り取った際にできた穴も元の土を丁寧に埋め戻すようにする。刈取りや掘り取り後のオオハンゴンソウの植物体はすべてビニール袋に入れて、調査区の外に持ち出し決められた方法で焼却処分する。さらに次年度の同時期に同調査を実施することによって、その効果を検証することとする。

（調査プロットの設置方法）

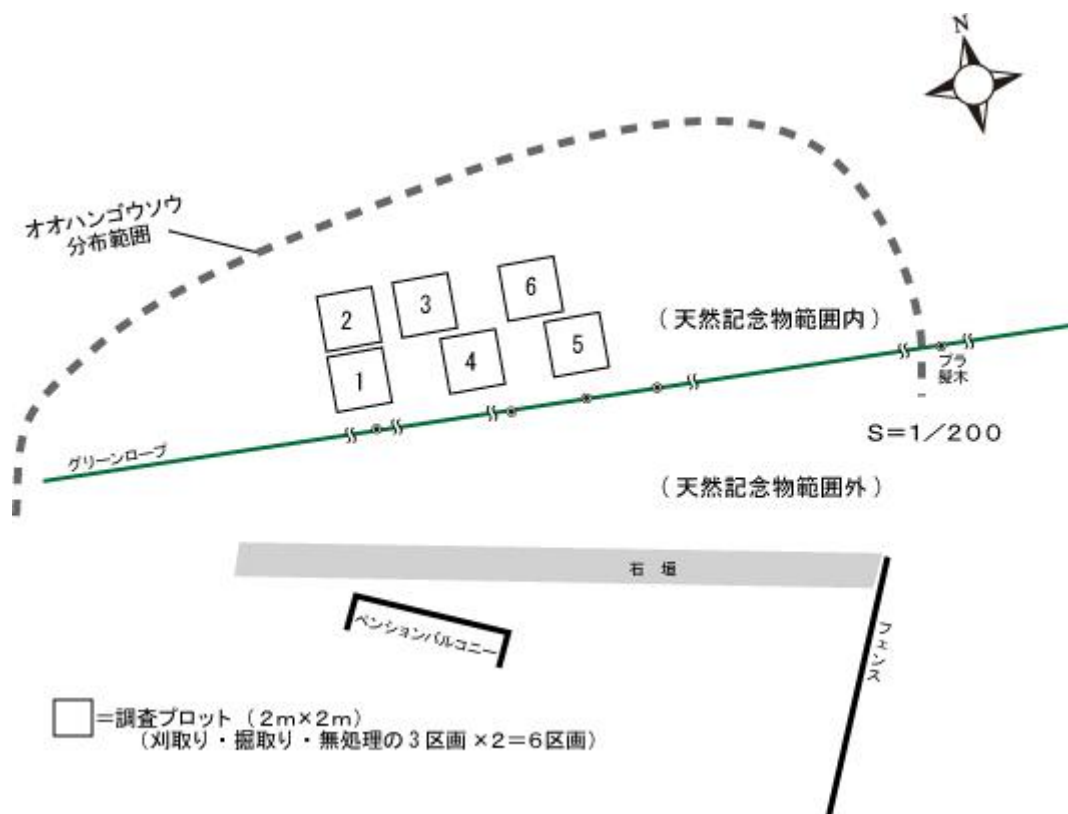
各プロットは 2m×2m で、その中の 1m×1m 内で調査を実施するが、処理については 4 m²で行う。プロットの 4 隅に木杭とダンポール（園芸用支柱）を設置し、クレモナロープを使用して、周囲からの侵入を防ぎ、範囲がわかるようにする。これらの設置については景観等に配慮し、調査完了後は現地より撤去する。



調査プロットの枠の
設置方法概念図



霧ヶ峰踊場湿原と外来種駆除モニタリング実施位置図



踊場湿原外来種駆除モニタリング調査プロット配置概念図